



広報
とうかい

特集

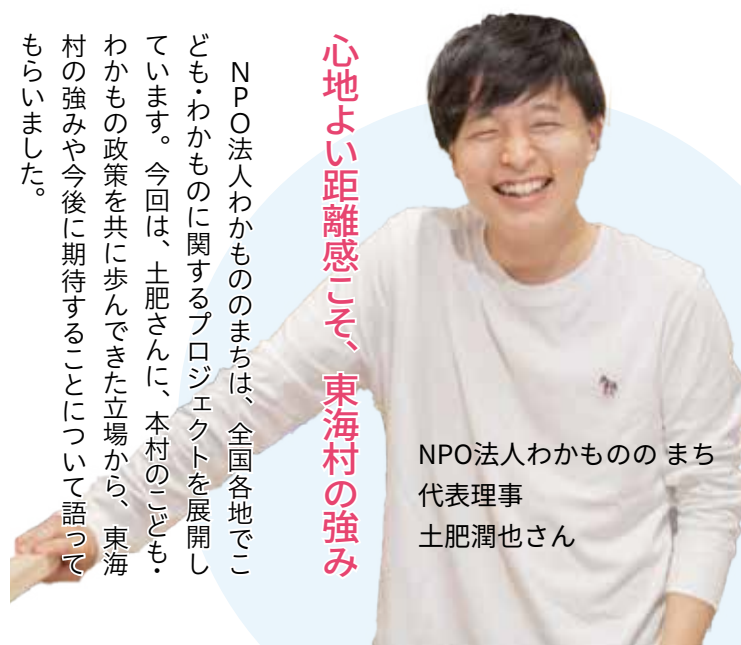
若者の声を まちのチカラに



東海村の強みは、まちのコンパクトさを生かした人と人との距離感だと思います。若者同士や若者と行政など、いろいろな関係性が心地よい距離感を持っています。

東海村はまだ取り組み始めたばかりですが、ぜひ短期的な視点ではなく、10年一区切りのような長く、広い視野を持って取り組んでもらいたいと思っています。16歳でまちと関わった若者が10年たつと26歳となり、社会人として中核を担う年代となります。その時に、初めて東海村が取り組んだこともわかもののまちづくりの成果が見えてくるのではないのでしょうか。

若者たちは常にメッセージを発していますので、全てを子ども扱いすることなく、小さな市民としてその声に耳を傾けてみてください。若者たちもやりたいことをぜひ言葉にしてほしいと思います。東海村にはその想いを受け止める器量があります。新たなまちづくりにチャレンジしている東海村に今後も期待しています。



NPO法人わかもののまち
代表理事
土肥潤也さん

心地よい距離感こそ、東海村の強み

NPO法人わかもののまちは、全国各地で子ども・わかものに関するプロジェクトを展開しています。今回は、土肥さんに、本村の子ども・わかもの政策を共に歩んできた立場から、東海村の強みや今後に期待することについて語ってもらいました。

若者は、「支えられる存在から」一緒にまちをつくる存在へ。社会全体の意識が変わりつつある今、「わかものまちづくり」について、一緒に考えてみませんか。

若者の声は、これからのまちづくりにおいて、欠かせないものです。日常生活で感じる「もつとこうなればいいのに」という小さな気付きや、若者ならではの柔軟な発想は、地域の魅力や課題を新たな視点で捉え直す大きなヒントになります。若者だからこそ気付けることが、まちの未来を動かす大切な一歩になるかもしれません。

若者の声が、未来のまちをつくる

令和5年4月以降、こども家庭庁の創設や、こども基本法が施行されたことがきっかけとなり、「こどもまんなか社会」の実現に向けた動きが全国で広がり始めています。これまで大人が中心であったまちづくりに、若者も一緒に参画していくことや、子ども・若者の声に耳を傾けるなどが求められています。

このような流れの中で、全国各地で高校生や大学生をはじめとする若者が、地域イベントの企画に参加して、まちの課題について話し合ったり、自分たちのアイデアを地域の方々に提案して実践したりする場が増えてきました。若者たちがまちづくりに参画し始めた今、社会は着実に変化しつつあります。

全国的に加速する「わかものまちづくり」



自分の“好き”から始まる わかもののまちづくり

村では、若い世代がやりたいことにチャレンジすることができ、まちに関わることができる仕掛けとして、「東海村つながるプロジェクト(T-project)」や「6・3・3plusとうかいっ子育成プロジェクト」を展開しています。しかし、地域を学び、地域と関わる機会は中学校卒業を境に薄れてしまう傾向にありました。

そこで、まずは地元の県立東海高等学校と連携して、授業を通して村の魅力を探求し発信する取り組みを始めました。令和5年度からは、それまでの取り組みをさらに深化させ、より高校生・大学生がまちづくりに関わるができる新たなプログラムとして「東海村わかもの会議」や「とうかいむら高校生まちづくりスクール」を展開しています。

プロジェクトに参加する若者たちは、少しずつ地域の魅力に気づき始め、いつしか「このまちで自分のやりたいことにチャレンジしたい」「自分たちのまちをより良くしたい」という想いが大きくなってきています。

今号は、そんな変化の中心で活動する高校生の本音を紹介します。

PICK UP!
#ワクワク★グラフィティ

大谷美月

「わかもの会議」や「まちづくりスクール」に参加する前は、自分が生まれ育った東海村に特別な想いはあまりなかったように感じています。しかし、プロジェクトを通して、人とのつながりや地域の魅力に触れ、今では、東海村が「かけがえない存在」になりました。

**生まれ育った東海村に対する
想いが大きくなりました**

高校の先生に勧められ、プロジェクトに参加したことで、これまでの価値観が大きく変わるきっかけとなりました。プロジェクトに参加する前は、できない理由を見つけて行動に移せないこともありました。周りの方のサポートを受けながら活動ができるため、自分がやりたいことに全力で向き合うこ

**のびのび活動できる環境
みんなが背中を押してくれています**

とができています。

入学当初は高校卒業後に就職する予定でしたが、地方創生やまちづくりについてさらに学びを深めたいという想いが強まり、大学への進学を決意しました。自分のやりたいことにチャレンジできるプロジェクトに参加できて、自分の中の大きな強みになりました。

PICK UP!

#はしゃげ！NEW スポーツ「トッカビー」



奥村 洸太

「今までの自分を少しでも変えたい！」という想いから「わかもの会議」に参加し、他の学校に通う友達と気軽に意見交換をしながら仲を深めることができて、友達の輪が大きく広がりました。

さらなる挑戦を目指して参加した「まちづくりスクール」では、自分の好きなダンスをテーマに、プロジェクトとして形にしていこうとの楽しさに気づき、前で発表することにも自信ができました。

これらのプロジェクトを通して得た学びを今後の人生に生かしていきたいです。

**挑戦すること
新しい自分に出会えました**



鈴木七夏



学校生活・将来編



高校生の

みんなのホンネ！徹底調査

リアルボイス

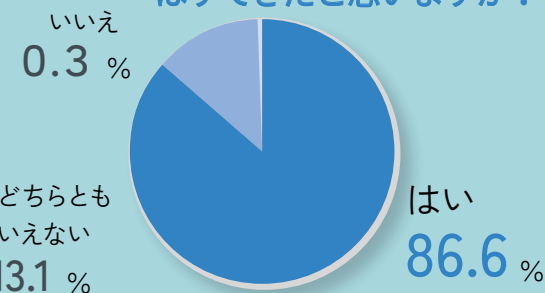
Q10 学校にこれがあったらうれしい！と思うものは？

ヘアアイロン
清潔なトイレ 給湯器
モバイル充電器の貸し出し free Wi-Fi
エレベーター
ドリンクバー
アイスやお菓子の自動販売機
電子レンジ
コンビニエンスストア

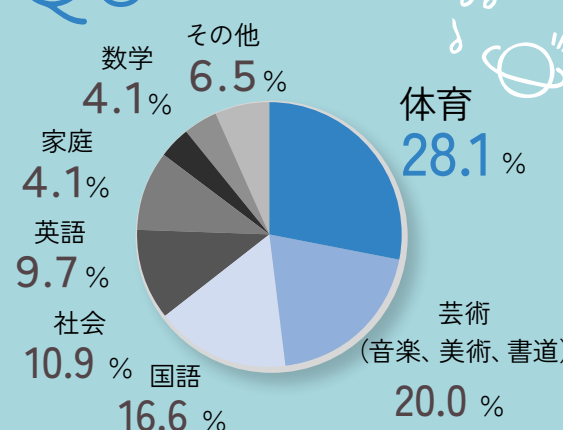
Q7 勉強のモチベーションを上げる方法は？

ご褒美をつくる
お菓子を食べる 好きな音楽を聴く
目標を立てる 気合い
友達とテストの点数を競う お気に入りの文房具を使う
時間を決めてから勉強する

Q11 若者の声を取り入れているまちはすてきだと思いますか？



Q8 好きな教科は？



みんなの声を届けよう！

村では、若者の声をまちづくりに取り入れていきたいと思っています。オンラインプラットフォームに登録(ニックネームでOK)してみんなの声を聞かせてください。



登録は
コチラから！



Q9 将来の夢は？どんな大人になりたい？

自立したい
保育士 思いやりがある人
看護師 人の役に立ちたい
親孝行したい 幸せな家庭を築きたい
動物関係の仕事 社長 美容師
心に余裕がある人

高校生は、いつの時代も流行の最先端。大人が追いつけないスピードでアップデートを繰り返しています。

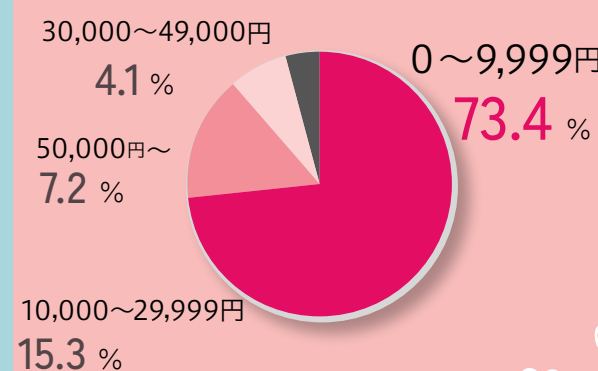
そんな高校生たちの実態を探るべく、村内在住・在学の高校生にアンケートを実施。約350人が答えてくれました。

皆さんも一緒に、高校生の本音に耳を傾けてみませんか。思わず共感してしまう“あるある”が見つかるかもしれません！

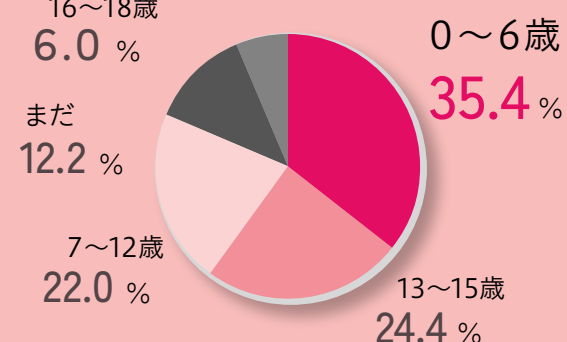
Q1 今、ハマっていることは？

映画鑑賞 カラオケ
推し活 麻辣湯 音楽を聴く
ゲーム 筋トレ
アニメ・漫画 ChatGPT

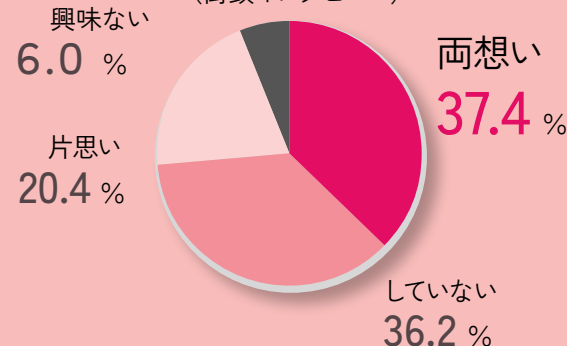
Q4 1か月のお小遣いはいくらですか？



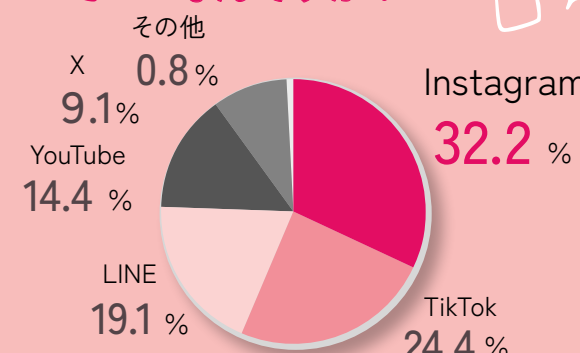
Q5 あなたの初恋はいつですか？
(街頭インタビュー)



Q6 今、恋をしていますか？
(街頭インタビュー)



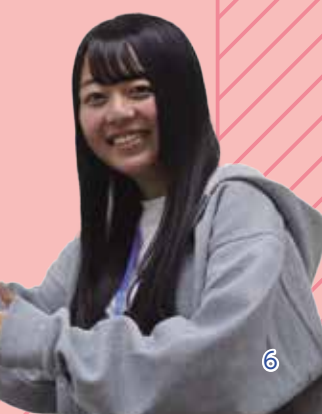
Q2 よく使うSNSはなんですか？



Q3 友達と何をして遊んでいますか？

プリクラ ご飯を食べる
カラオケ おしゃべり
ゲームセンター ショッピングモールで買い物
Tik Tok
推し活 オンラインゲーム

たくさんの回答
ありがとうございます！
ございました！



※Q1・3・7・9・10の回答は一部抜粋したもので、回答数が多いほど文字を大きくしています。